

ハガティ駐日米国大使との懇談会を開催

2019年2月21日、ウィリアム・ハガティ駐日米国大使を招き、日米経済関係の強化をテーマに意見交換を行った。小林喜光代表幹事をはじめ、本会幹部6人が出席し、活発に意見が交わされた。

冒頭に小林代表幹事は、昨年10月の代表幹事ミッションでシリコンバレーを訪問したことを報告した。12月には、代表幹事就任以来3年半の活動の総まとめとして「Japan 2.0 最適化社会の設計」を公表したことを紹介。国際情勢がますます不透明になる中、強固な日米関係が今ほど重要なときはないとして、今後の前向きな両国の対話に期待を示した。

ハガティ大使はまず、櫻田謙悟副代表幹事に対し、次期代表幹事候補内定への祝意を表明した。

日米間の貿易・投資関係に関しては、近く始まる貿易対話を通じ、日米の競争力が高まり、新しいビジネス機会が生まれることへの期待を示した。通商

交渉に経済人の声が反映されることが重要だとして、日本の経済界からも声を上げること、特に早期の交渉開始を促してほしいと述べた。

インド太平洋構想に関し、日米が経済、安全保障の両面で協力することで、この地域の自由と繁栄が広がると指摘した。

意見交換時には、世界における自由なデータの流通、WTO改革への米国の姿勢、地政学リスクが高まる時代における二国間外交と多国間枠組みのあり方、モノを扱う製造業



とGAFAsのようなデジタルプラットフォームに期待される役割、将来のエネルギーのあり方など、多様なテーマについて議論を行った。